

江戸川学園おおたかの森専門学校  
学校自己評価報告書  
(令和5年度)

令和6年(2024年)7月

学校法人江戸川学園

江戸川学園おおたかの森専門学校

# 目 次

I	学校の現況	2
II	評価の基本方針	3
III	重点目標	4
IV	評価項目の達成及び取組み状況	
(1)	教育理念・目標	5
(2)	学校運営	6
(3)	教育活動	7
(4)	学修成果	9
(5)	学生支援	11
(6)	教育環境	14
(7)	学生の受入れ募集	15
(8)	財務	15
(9)	法令等の遵守	16
(10)	社会貢献・地域貢献	17
(11)	国際交流	18

## I 学校の現況

### (1) 学校名

江戸川学園おおたかの森専門学校

### (2) 所在地

〒270-0198

千葉県流山市駒木 474

### (3) 沿革

- 昭和 56 年 4 月 江戸川学園豊四季専門学校 設置  
社会福祉実務科（現 心理・社会福祉学科）開設
- 平成 3 年 4 月 介護福祉実務科（現 介護福祉学科）開設
- 平成 9 年 4 月 江戸川大学総合福祉専門学校に校名改称
- 平成 15 年 4 月 児童福祉科（現 こども福祉学科）開設
- 平成 19 年 4 月 社会福祉士養成科（現 社会福祉士養成学科）開設  
専門学校新学生ラウンジ棟完成
- 平成 20 年 11 月 専門学校学生相談室（カウンセラー配置）設置
- 平成 30 年 4 月 江戸川学園おおたかの森専門学校に校名改称
- 平成 31 年 4 月 スポーツトレーナー学科 開設

### (4) 学科の構成

- 教育・社会福祉専門課程 心理・社会福祉学科
- 教育・社会福祉専門課程 心理・精神保健福祉学科（募集停止）
- 教育・社会福祉専門課程 介護福祉学科
- 教育・社会福祉専門課程 こども福祉学科
- 商業実務専門課程 介護マネジメント学科（募集停止）
- 文化・教養専門課程 スポーツトレーナー学科（募集停止）
- 付帯教育 社会福祉士養成学科通信課程

### (5) 学生数及び教職員数

○学生数（令和5年5月1日現在）

	第1学年	第2学年	合計
専門課程	138名	142名	280名
付帯教育	106名	120名	226名

○教職員数（令和5年5月1日現在）

専任教員	19名
非常勤講師	47名
専任職員	9名
非常勤職員	4名

## (6) 施設の概要

○講義室（大講義室含む）	18
○演習室（音楽演習室含む）	7
○実習室（介護実習室、家政実習室）	4
○準備室	4
○会議室	2
○学生相談室	2
○学生ラウンジ	1
○研究室	16
○保健室	2
○印刷室（コピー室）	2

## II 評価の基本方針

### (1) 評価の目的

実践的な職業教育等を行うため、本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目標・目的を設定、達成状況や達成に向けた展開の適切さや妥当性を評価・公表することにより、組織的・継続的な改善を図るとともに学校組織としての継続性について検証していく。

### (2) 学校評価の組織体制

江戸川学園おおたかの森専門学校評価規程に基づき自己評価委員会及び学校関係者委員会を設置し、自己評価を行い、その結果を第三者評価に付する体制を整える。

### (3) 学校評価実施方法

教育目標や計画、評価項目について、具体的な業績や成果、各データ等に基づき検証し、その成果を評価する。

### (4) 学校評価の公表及び改善

学校自己評価報告書においては、各評価項目に対する達成状況を明記し、そこでの課題や今後の改善方策について簡潔に記述するとともに、学校運営上具体的な施策として討議、実施していく。内容については、個人情報保護や教育展開上の安全について十分留意し公表することとしている。公表は、ホームページ上に公開するとともに、学務課にて紙面による閲覧も可能としている。

## Ⅲ 重点目標

本校は、学校法人江戸川学園の母体である江戸川女子中学校・高等学校の創立 50 周年に当たる 1981 年（昭和 56 年）に江戸川学園豊四季専門学校として創設され、設立当初より福祉分野における人材を育成・養成する目的をもって教育に当たってきた。

学校法人江戸川学園の教育理念は、「誠実・明朗・喜働」という三つの言葉で表されており、学校教育を通じ、誠実で明るく、そして人のために喜んで働くことができる人材の育成を目指している。その教育理念のもと、本校では「総合福祉に関する専門的知識及び技術・技能を習得し、職業もしくは実際生活に必要な能力の育成を図る」ことを教育の目的としてきた。

わが国は、総人口が減少する時代に入り、国民生活・経済に大きな影響を与え得る事態であるが、高齢化へと変化する人口構成の中で国全体の活力を維持するために、福祉の分野の拡大・成長の必要性はますます増大しており、そのような社会的要請や学園の教育理念に基づき、本校は、様々な福祉分野で活躍する人材を育成し、社会に送り出していくという大きな社会的使命を担っている。

本校は、学校教育を通じ、福祉に関連する仕事を目指す学生の就労を支援し、福祉というものにしかりと向き合いそして自らが成長していく過程を十分に築かせることを教育の目標としている。そして、本校は、福祉に対し高い志を持つ学生を育成することにより、わが国の福祉の水準を高めることに真摯に取り組んでいく。

以上

#### IV. 評価項目の達成及び取組み状況

##### (1) 教育理念・目標

(評価: 適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1)

	評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a)	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3	【現状】本校では「総合福祉に関する専門知識と技術技能を習得し、職業生活に必要な能力の育成を目指すこと」を教育の目標に定めている。専門分野の特性は学科ごとのディプロマ・ポリシーで示されている。 【課題】学校全体の理念・目的・育成人材像について、明確化すべく2024年度中に検討をおこなう。ホームページや学校案内での明確な提示はされていない。
(b)	学校における職業教育の特色は何か	4	【現状】目指すべき国家資格等の養成カリキュラムに基づき適正に講義・演習・実習を実施し、実践力を身に付けた人材育成に取り組んでいる。福祉の現場では知識だけではなく実践力を身につけた人材が不可欠なことから、実務経験を有する講師陣が職業実践教育を展開し学則に沿った職業教育を展開している。 【課題】特になし。
(c)	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	【現状】福祉人材の育成のニーズが増える中、高校新卒者に限らず、留学生の受け入れや公共職業訓練制度の委託訓練生の受け入れなどを行っている。多様な人材が本校で学び、知識や技術、資格を取得し、福祉現場でその力を発揮していけるようカリキュラム等の検討を重ねている。 【課題】福祉人材の量的・質的確保という社会からの要請は大きいものの、希望する高校生等の減少が課題である。福祉の仕事の魅力についての広報に力を入れるとともに、将来構想を構築する必要がある。
(d)	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等に周知されているか	3	【現状】学校の理念・目的・育成人材像・特色については学校案内や学生便覧、令和4年度から始まった父母等オリエンテーションなどにおいて、学生・父母等への周知を図っている。 【課題】学校の理念・目的・育成人材像・特色について、学校案内やホームページ、学生便覧での明文化について、2025年度までにはおこなうべく、2024年度中に準備する。また、中長期的な将来構想についても策定・周知は課題である。

評価項目	評価	【現状】と【課題】
(e) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	【現状】学科ごとに目指す国家資格等に沿って、それぞれ福祉施設、保育所等の職員としての必要十分な業務遂行能力を養成することを教育目標としている。 【課題】現場職員との連携をさらに密にして、実際どのような人材育成を養成機関に求めるのかそのニーズを明確化していく。

(2) 学校運営

(評価:適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1)

評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	【現状】「高等学校教育の基礎の上に高い教養と総合福祉に関する専門的知識及び技術・技能を習得し、職業もしくは実際生活に必要な能力の育成を図ること」との本校の教育目的を達成すべく、職業実践的な教育を重視し、専修学校設置基準・養成施設指定規則等に基づいた教育課程を展開するとの運営方針が策定されている。 【課題】特になし。
(b) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	【現状】中長期的な職業実践教育の充実・発展を睨んだ事業計画を策定している。 【課題】2024年度中に、2025年度以降にかかわる事業計画を策定する。
(c) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4	【現状】運営組織に関しては、年度ごとに組織体制の在り方が検討され、学校組織の見直しや組織図が策定され、各教職員の役職、業務分掌が定められている。本校の教育における基本方針、本校の運営経営に係る意思決定に関しては、運営会議規程が定められており、学校組織運営は、有効に機能している。また、教務に関しては、教務委員会規程に基づき教務委員会が運営されており、授業運営及び教務事項に係わる事項を所掌し必要な措置を講じている。 【課題】権限規程の策定を検討する。
(d) 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	【現状】人事に関しては、江戸川学園おおたかの森専門学校就業規則において定められており、給与に関しては、江戸川学園おおたかの森専門学校就業規則の規定に基づき、給与規程が定められている。 【課題】人事評価制度の整備を検討する。

評価項目	評価	【現状】と【課題】
(e) 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	【現状】財務に関しては、学校法人江戸川学園法人事務局組織規程において法人事務局経理部経理課の所掌事務として定められており、予算・決算等に関しては、適切に学校法人江戸川学園理事会の承認を得た上で執行している。 教務に関しては教務委員会、また重要事項については運営会議にて決定している。 【課題】特になし。
(f) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	【現状】教務委員会、実習委員会等で法令に適合する教育内容となるよう精査をおこなっており、また逐次、行政当局に相談、報告、手続きをおこなっている。 【課題】特になし。
(g) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3	【現状】「学校概要」「授業科目・方法・内容」「学納金」「学校自己評価」については本校のHPにて、「財務状況」は法人のHPにて公開している。 【課題】「教育目的・目標」の公開。
(h) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	【現状】授業支援システムとしてエドポタを、事務支援システムとしてガクエンを導入していたが、加えて2023年度は、介護福祉学科、心理・社会福祉学科、社会福祉士養成学科(通信課程)においては、実習支援システムを導入した。 【課題】原議書にかかわるシステムの導入を検討する。

(3)教育活動

(評価:適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1)

評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3	【現状】江戸川学園として、「誠実」「明朗」「喜働」の精神をともに、「人間としての優しさに満ち、普遍的な教養と時代が求める専門性をもって社会貢献できる人材」の育成を目的としている。 2024年度の教育関係を含めた事業計画を2023年度末に策定。 【課題】特になし
(b) 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年数に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	【現状】各科目のシラバスによって、到達レベル、自己学習の内容・時間の目安を明示している。 【課題】特になし。
(c) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	【現状】資格ごとに国が定める教育課程にもとづき、本校の各学科のカリキュラムも編成している。 【課題】特になし。

評価項目		評価	【現状】と【課題】
(d)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	<p>【現状】各科目のなかで展開している(以下は例)。 例)キャリア教育…「福祉サービスの組織と経営」(心社) 職業教育…「実習」(全学科)、「演習」(全学科)など</p> <p>【課題】特にキャリア教育について力を入れる必要がある。 なお、2024年度は、「EDOSEN 福祉のおしごとフェア」と銘打ち、高齢者施設を中心とした各施設に協力をいただいで学内にて合同就職説明会を実施し、学生たちへの職業教育の一環とする予定である。</p>
(e)	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか	3	<p>【現状】各学科とも、国が定める国家資格養成にかかわるカリキュラムである関係上、本校が独自で作成できる余地は限られている。しかし、その範囲においても、学内の教員によるカリキュラム編成となっている。</p> <p>【課題】次回のカリキュラム改訂時には、福祉施設関係者等から意見をいただく機会を設ける。</p>
(f)	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3	<p>【現状】資格毎に国が定める教育課程に基づき、実習、演習(実技等)を実施している。インターンシップについては各社会福祉法人等からの案内を学生に周知し、一部の学生は参加している。</p> <p>【課題】学生のインターンシップ参加の更なる促進を図る。</p>
(g)	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	<p>【現状】各期末に学生による授業評価アンケートを実施している。</p> <p>【課題】学生の回答率の向上。</p>
(h)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	<p>【現状】実習巡回、実習報告会等で適宜、関係者にご意見を伺うことがある。</p> <p>【課題】巡回、報告会等の機会を活かし関係者から積極的にご意見を伺うとともに、それらを報告書等にまとめ、学内で共有化を図る。</p>
(i)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	<p>【現状】学則、成績評価基準を設け、進級・卒業判定の基準は明確となっている。成績評価・単位認定の基準は、科目ごとに、シラバスにて明示している。</p> <p>【課題】成績評価・単位認定の基準は、授業担当教員それぞれに委ねられている。</p>
(j)	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	<p>【現状】資格毎に国が定める要件にもとづいた教員配置、カリキュラムとしている。</p> <p>【課題】国の定める教育課程に準じた教育課程表であるが、その展開については、体系的なものになっているかどうかの視点で精査をする。</p>

評価項目		評価	【現状】と【課題】
(k)	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	【現状】国が定める要件を満たす教員配置を行っている。 【課題】教育内容の精査、教員の評価については十分にできていない。人材育成達成に向けた授業をおこなうことができる教員の採用・育成を図る。
(l)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	【現状】実務家教員を積極的に採用している。また、一部の科目では、福祉施設の方にゲストスピーカーとして講義をしていただく授業を設けている。 例)「障害福祉」(心社) 「コミュニケーション技術」(介護) 「保育実習指導Ⅰ」「保育内容演習(表現)」(こ福) 【課題】施設等との人事交流などを検討する。
(m)	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	【現状】2022年度、実質的に初めて研究授業を実施(前期:一部の専任教員、後期:すべての専任教員)。いずれもフィードバックは文書にて実施した。2023年度は前期:全専任教員・フィードバックは文書にて実施、後期:一部の専任教員・授業後の振り返りの会を実施した。 【課題】2024年度は全専任教員について、研究授業ならびに振り返りの会を実施予定である。
(n)	教員の能力開発のための研修等が行われているか	4	【現状】在宅研修日、研究図書費を付与することにより、教員の研究、自己研鑽を推し進めている。また各教員には、その実施内容について、報告書の提出、口頭報告(いずれも年1回)を課している。 2023年度は、FDとして研究授業のふりかえりのまとめについて3月の非常勤講師会時に実施した。また紀要に全専任教員の在宅研修報告を収録した。 【課題】教員の報告内容を精査のうえ、在宅研修等がさらに有意義なものとなるよう、その促進を図る。

(4)学修成果

(評価:適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1)

評価項目		評価	【現状】と【課題】
(a)	就職率の向上が図られているか	4	【現状】就職希望者は98%である。就職以外の進路(進学等)を希望する学生に対しても支援している。 【課題】特になし。

評価項目		評価	【現状】と【課題】
(b)	資格取得率の向上が図られているか	4	<p>【現状】こども福祉学科に関しては、卒業時に必要な資格登録を行うことで保育士の資格を取得することができる。</p> <p>介護福祉学科については、卒業時に国家試験受験資格を得ることができ、国家試験対策の授業や模擬試験を実施している。合格率は日本人 90.6%、留学生 33%となっている。</p> <p>心理・社会福祉学科においては、指定科目の履修により、実務経験を 2 年経た後、社会福祉士あるいは精神保健福祉士の国家試験受験資格を得ることができる他、国家試験合格に向けた合格講座やスタートアップ講座を実施している。社会福祉士国家試験合格率は福祉系短大+実務経験者が 22.7%、一般養成施設等（通信）新卒が 57.8%となっている。</p> <p>【課題】留学生の介護福祉士国家試験の合格率を向上させる。</p>
(c)	退学率の低減が図られているか	3	<p>【現状】担任を中心に、各学生の心身の状態について面談を行うなどの取り組みをしている。</p> <p>【課題】退学率は 1 年生 9.4%、2 年生 4.9%。経済的な理由で退学を検討している学生には奨学金を紹介している。また、成績不振や実習が大きなハードルとなっている学生への取り組みとしては、カリキュラムの見直しによる効果をモニタリング中である。</p>
(d)	卒業生・在学生の社会的な活動及び評価を把握しているか	3	<p>【現状】在校生は、ボランティア活動等をおこなった場合は Google フォームを通して学校に報告することとなっているものの徹底がなされず、全数把握はできていない。また、多くの卒業生が、教員を訪ね自らの仕事その他の活動について報告をしてくれているが、個々の卒業生が教員個人に報告することに留まり、システムティックな把握はできていない。</p> <p>【課題】2024 年度はホームカミングデーの実施等を通して、卒業生との繋がりの強化を図る。同窓会との連携を強化していく。</p>

評価項目		評価	【現状】と【課題】
(e)	卒業生のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2	<p>【現状】卒業生の住所等を確認しているものの十分な現況確認を行うことは難しく、そもそも把握するシステムが構築されていない。</p> <p>【課題】効果を把握した上で学校の教育活動の改善に努めているのは、各教員の検討に止まっており、教員全体の認識にまで至っていない。全学科の教員に徹底させる必要がある。</p>

(5) 学生支援

(評価:適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1)

評価項目		評価	【現状】と【課題】
(a)	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3	<p>【現状】実習・就職センターを設置しており、本校学生への採用希望がある福祉施設からの求人票を、パンフレット等紙ベースの保管及びインターネットを活用した閲覧の取りまとめを行っている。また学科毎に外部から卒業生を招講し、就職活動のための指導・支援を行っている。学生の相談には、担任が中心となり支援を行っている。</p> <p>【課題】担任が支援しているがバラつきがあるため、実習・就職センターも必要に応じて相談に乗れるような支援体制を構築する必要がある。</p>
(b)	学生相談に関する体制は整備されているか	4	<p>【現状】学生相談室を設置し、相談員(カウンセラー)を配置して適宜相談に応じている。また卒業した学生から要請があった場合、卒業後半年は相談を継続し、不安なく社会生活へ適応できるよう支援している。</p> <p>【課題】特になし</p>
(c)	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	<p>【現状】各種奨学金や修学資金貸付制度等が活用できるよう、年度初めにオリエンテーションを実施し必要に応じて活用する流れとしている。また、専門学校独自の育英会奨学金を設置し、困窮する学生への支援に役立てている。学級担任制度を敷き、学費等に関し学生だけで不安を感じず気軽に相談できる体制を整えている。</p> <p>【課題】特になし</p>
(d)	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	<p>【現状】毎年度初めに健康診断を行い、実習に向けた健康状態を確認できるようにしている。学内の保健委員は、保健室の管理を行い、年3回保健便りの発行を実施している。</p> <p>【課題】特になし</p>

評価項目		評価	【現状】と【課題】
(e)	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	<p>【現状】ボランティア活動については実習・就職センターと連携し、求人同様インターネットを活用して検索できるシステムを運用し、広く募集している。学園祭では、近隣の福祉施設に声をかけ、物販を通して実習以外においても福祉に携わる機会を設けた。</p> <p>【課題】近年のコロナ禍において、学内でのサークル活動は活発に行っていなかったが、2023年度より、吹奏楽部や手話サークル等が徐々に活動を再開している。</p>
(f)	学生の生活環境への支援は行われているか	4	<p>【現状】本校は学級担任制度を敷いており、学生の生活環境については、担任教員及び各学科において把握できる体制としている。学生との面接や、生活・学習態度から生活環境に変化が見られる場合には、担任教員や各学科、また副校長等と連携し、面談／指導等を実施している。また学生相談室の紹介等を行っている。</p> <p>【課題】特になし</p>
(g)	父母等と適切に連携しているか	3	<p>【現状】令和4年度より、父母等オリエンテーションを開始し、エドポタの使用方法や学科毎の流れを理解頂いている。また勉学や金銭面等に不安を感じる学生に対しては個別対応を行い、適宜父母等とも連絡を取りながら安心して学び続けられる環境を作っている。</p> <p>【課題】保護者のエドポタの活用にバラつきがあり、今後も学生を通じて活用頂くようアナウンスが必要である。</p>
(h)	卒業生への支援体制はあるか	4	<p>【現状】卒業生からの要請があった場合、各教員が個別に相談に応じ、場合によっては学生相談室を利用できるよう体制を整えている。就職先への不安や、再就職先への希望等は、実習・就職センターも活用し情報提供を行っている。また「社会福祉士国家試験合格講座」や、「社会福祉士実習指導者講習会」、2023年度からは「介護福祉士実習指導者講習会」も実施している。</p> <p>【課題】現状は、卒業生からの要請に応じる個別対応に止まっており、体制システムの構築が必要である。2024年度に向けて、ホームカミングデーの開催を予定している。</p>
(i)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	<p>【現状】社会人への就学への取り組みを支援する目的で、各種奨学金を取り入れ、社会人の学費軽減ニーズに応じて実施している。社会福祉士養成学科では国家試験に向けて、合格講座を行っている。</p> <p>【課題】特になし</p>

評価項目		評価	【現状】と【課題】
(h)	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	<p>【現状】近隣高等学校等と連携し、高等学校等の授業(家庭科)に組み込形態で、本校の教員が福祉機器、教育機器等を利用し高等学校の生徒に対し、車いす使用方法や高齢者体験、保育体験等のキャリア教育・職業教育への取り組みを行っている。また「仕事の学び場」(就職意識の伸張を図る目的で、千葉県専修学校各種学校協会主導の下に行われる体験授業)を実施し、各学科を2日間かけて体験学習を行い、職業教育・仕事へのイメージが図れるよう支援している。</p> <p>【課題】2024年度より、「ふくしコンソーシアム千葉」に参加し、福祉系高校と連携していく予定である。</p>

## (6)教育環境

(評価:適切...4 ほぼ適切...3 やや不適切...2 不適切...1)

	評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a)	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	2	<p>【現状】専修学校設置基準・養成施設指定規則等に基づき、普通教室、演習室、実習室、音楽(ピアノ)室、特別(パソコン)室等を整備。また、江戸川大学との共用で総合情報図書館やグラウンド・体育館等についても利用できるような環境整備をしている。</p> <p>【課題】建築・設置等から40年以上経過している施設・設備もあることから経年劣化・老朽化が目立つものもあり、適宜、整備・更新を実施するとともに、中長期を見据えた整備計画をたてる必要がある。なお、2024年度は、各教室のモニター(TV)、パソコン室1室のパソコンの入れ替えを予定している。またWi-Fiの導入を検討していきたい。</p>
(b)	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	<p>【現状】学内の実習施設については、法令に基づき演習実習施設を設置しており、その教育の実施に十分な施設を整えている。また、学外の施設と連携し、実習教育体制の環境を整備し、学外実習を展開している。また、こども福祉学科1年、心理・社会福祉学科1年においては、正規の実習以外に福祉施設等での体験学習を実施している。</p> <p>【課題】計画的なインターンシップ制はとりいれておらず、その導入を検討する。</p>
(c)	防災に対する体制は整備されているか	3	<p>【現状】学校教育法をはじめ、建築基準法や消防法を遵守。防災の観点からも対応策を講じることとしている。火災報知機や防火扉等、上層階からの脱出器具の設置等消防法に基づいた防火設備を設置、定期的に消防署や消防設備業者により点検が行なわれている。また、毎年消防法に基づき、教職員による防火・防災訓練を実施している。</p> <p>【課題】教職員中心(参加)の防火・防災訓練は毎年実施されているが、在校生参加の総合的な訓練が実施されていない。なお2024年度は、学生を含めた防災訓練を予定している。</p>

## (7) 学生の受入れ募集

(評価: 適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1)

評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a) 学生募集活動は、適正に行われているか	4	【現状】受験対象者には正確な情報を伝え、ルール・日程に則り、無理強いすることなく適正に実施している。 【課題】特になし。
(b) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	【現状】就職状況、資格取得率などパンフレットで開示している。 【課題】今後、SNS を更に有効活用していきたい。
(c) 学納金は妥当なものとなっているか	4	【現状】同種の他校と比較しても妥当なものと思われる。 なお、心理・社会福祉学科、社会福祉士養成学科のカリキュラムの改正に伴い、実習時間の増加による実習関連費の見直しを行った。 【課題】特になし。

## (8) 財務

(評価: 適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1)

評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3	【現状】学園全体としては、創立から 90 年を超える歴史を有し、学生・生徒・児童数の合計が約 7,000 人を超える総合学園として安定的な業務運営を実践しており、財務基盤は総じて安定している。 一方、当校単体で見れば、福祉分野への志願者減少等により、2007 年度に事業活動収支が赤字となり、それ以降 2023 年度まで 17 年間に亘り赤字が続いている。 【課題】当校単体としては、学生募集において定員充足を図ると共に、教育の質の維持・向上等による退学率の低減、財務基盤の強化を行っていく必要がある。
(b) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	【現状】学園法人事務局が傘下の各学校の予算・収支計画を集約し、学園全体の予算・収支計画を作成のうえ理事会・評議員会に諮り、運営方針・事業計画に照らし有効かつ妥当であることを確認している。 【課題】特になし
(c) 財務について会計監査が適正に行われているか	4	【現状】監査契約を締結している会計事務所に会計監査を依頼しており、毎年度適正に実施されている。また、理事会監事において、会計監査結果の適切性を確認している。 【課題】特になし
(d) 財務情報公開の体制整備はできているか	4	【現状】学園のホームページ等を開示すると共に、各学校事務室に閲覧が可能な状態で開示している。 【課題】特になし

## (9)法令等の遵守

(評価:適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1)

	評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a)	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	3	<p>【現状】学校教育法に定める専修学校として、また介護福祉士、保育士、社会福祉主事、社会福祉士を養成する施設として、専修学校設置基準、養成施設指定規則等、法令に基づいた教育課程の編成や教員の配置、施設設備の整備を行なっている。さらに法令等に基づき監督官庁に対し適宜報告・届・申請等の手続きを行なっている。</p> <p>【課題】養成施設毎の業務報告作成に関わり、その点検のプロセスの見直しをする必要がある。</p>
(b)	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2	<p>【現状】個人情報の取り扱いについては法令を遵守することはもとより、学内において各種規程等を制定し、その保護に十分対応した体制をとるよう努力している。</p> <p>【課題】学内における個人情報管理について、取り扱いや保管場所のルールなどについて、定期的な研修などを通じ、繰り返し注意喚起を行う。</p>
(c)	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	<p>【現状】学校自己評価については、毎年定期的実施しており、適宜評価項目の見直しや検討、また改善点や留意事項の確認を確実に実行するよう心掛けている。</p> <p>【課題】学校自己評価の適時の開催およびその内容開示について、評価実施体制を確立するとともに、第三者評価の実施に向けた対応を図る必要がある。</p>
(d)	自己評価結果を公開しているか	4	<p>【現状】自己評価結果の公開については、適時本校ホームページにおいて開示している。</p> <p>【課題】ホームページにおける開示ばかりではなく、来校し窓口等における開示体制も確立する。</p>

## (10)社会貢献・地域貢献

(評価:適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1)

評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	<p>【現状】近隣の小・中学校や高等学校と連携し、本校の福祉用具を用いて、車椅子や保育士体験等の福祉教育を実施している。</p> <p>【課題】教室等の貸し出しを検討する。</p>
(b) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	<p>【現状】実習・就職センターを窓口とし、近隣地域や施設等からのボランティア要請に対応。エドポタ掲示板や教室へのチラシ配布によって、学生へ周知しボランティア活動を奨励している。また、こども福祉学科では、1年次夏休みにボランティア活動を学生が体験している。</p> <p>学生のボランティア活動については、都度 Google フォームを通して報告するよう学生に呼びかけているが、学生からの報告は徹底できておらず実態は把握しきれていない。</p> <p>【課題】学生のボランティア参加率が低下しており、ボランティア参加の呼びかけや周知方法を見直す必要あり。</p>
(c) 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	<p>【現状】流山市等行政機関の委託事業に加え、自治会・施設等から依頼を受け、講師を派遣している。</p> <p>また、本校学生だけでなく、地域住民や福祉従事者を対象とし、「介護職員初任者研修」「社会福祉士国家試験合格講座」、介護福祉学科・こども福祉学科による「離職者等再就職訓練」を行っている。</p> <p>【課題】</p> <p>新しいニーズにあわせた研修等を開発していく。</p>

## (11)国際交流

(評価:適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1)

評価項目	評価	【現状】と【課題】
(a) 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	<p>【現状】国際交流センターを設置し、日本語学校や留学生派遣団体と連携し、介護福祉士資格の取得を目指す留学生を受入れている。また、千葉県が実施している「留学生受入れプログラム」にも協力し、留学生を積極的に受入れている。</p> <p>入学した留学生に対しては、福祉施設と提携し確実に就労できるようマッチングしている。</p> <p>【課題】特になし。</p>
(b) 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	<p>【現状】入学後は、出席管理・在留カードや奨学金申請等、必要な手続きについては、国際交流センターを中心に指導助言を行っている。出席管理や手続きにあたっては、提携福祉施設からも協力を得ている。</p> <p>【課題】特になし。</p>
(c) 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	<p>【現状】留学生を想定した科目指導や日本語担当教員の配置、担任制によって学習面を支え、国際交流センターや提携福祉施設と連携することにより精神的な支援や生活指導を行っている。</p> <p>【課題】特になし</p>
(d) 学修成果が国内外で評価される取組をおこなっているか	2	<p>【現状】日本語教育を2年間通して受講し、2年次後期には国家試験対策を3科目設定し、資格取得に向けた取組を行っている。</p> <p>令和5年度に卒業した留学生28名中、介護福祉士国家試験に合格した学生は9名。前年度の合格者数より増えてはいるが微増となっている。</p> <p>【課題】国家試験合格に向けて、1年次より各授業で国試問題に取り組む機会を増やす。また、日本語能力向上が国試合格に欠かせないため、1年次にN3.N2合格できるよう日本語教師と連携する必要がある。</p>